

授業改善書

科目名	心理学概論 I
担当者	安崎文子

授業の概要

はじめて心理学を専門的に学ぶ学生の入門として、心理学概論 I では、心理学の歴史・神経生理・知覚・認知・学習・発達・社会といった、心理学の基本的な領域について、広く概説を講義する。対人支援の専門家を目指す為に、科学としての心理学的な観点から、心理学の基礎的な知識の習得を目指す、授業である。心理学概論 I は基礎、心理学概論 II は応用の内容である。カウンセラーを希望する学生が多いので、概論 I は、学生の興味からやや外れている分野が多い。

授業の問題点

授業内容についてのアンケート結果では、授業内容・授業方法・授業満足度についてほぼ、平均またはそれ以上の得点だった。しかし、学生自身の学習態度については、質問や発言がほとんどなく、受け身の講義であったことがわかる。また学生の意見にも、スピードを落としてもらいたいとの意見もあり、全体に量が多く、進み方が早かった、と思われる。

学生の授業満足度

授業満足度は、2項目ともに平均点を超えており、講義形式で量は多かったものの、一応学生の満足のいく内容であった。学生からの感謝の言葉は励みになる。より満足度が高くなるような授業を心掛けたい。

授業改善の課題と方策

授業満足度は高かったものの、学生の質問や発言はなく、講義中心であった。今後は Active learning を積極的に取り入れ、参加できる課題を取り入れる必要がある。また、学生に多くのことを教えたいと量が増え、内容が薄まってしまうこともあるので、テーマや課題は絞り学生に考えさせる課題を多く与えるようにしたい。

その他

心理学は、日本だけが文科系に属しているが、諸外国では理科系である。心理学に期待して入学した学生にとっては、想像していた心理学とは大分違うので、まず驚く。これは他の大学の心理学の教師も共通して感じていることである。大概の学生は、カウンセラーを希望して心理学科へ入学してくる。心理学は座って相談を受けるだけの学問ではない。心理学は、臨床だけではなく、知覚・認知・学習・社会・発達・教育・神経生理・産業と幅広い。現実の心理学の立ち位置を、まずわかってもらい、がっかりせずに、興味をもってもらうのが、本授業の目的だろうと、考えている。

授業改善書

科目名	障害児（者）心理学
担当者	安崎文子

授業の概要

様々な発達段階で生じる様々な障害について取り上げる。それぞれの障害の定義や社会的支援制度、障害の持つ意味や問題、障害の多様性、当事者や家族の問題や感じ方について講義する。障害を多様な視点から捉え、どう対応・支援していくことが必要か、ともに生きる社会をどのように作るべきか、受講者と意見を交換しながら講義する。

授業の問題点

全体に平均点を下回った。学習態度については、メモを取らないと進まない授業形式であったので、その点はほぼ平均点であった。授業内容はやや平均より低かったが、資料の適切さがやや低く量が多かったと思われる。授業方法は最も低く、特に、「適切な内容や量だったか」が低かった。量が多すぎる、早すぎる、とのコメントもあり、今後はポイントを絞り、よりゆっくりと進めなければならない、と思われた。

学生の授業満足度

授業満足度は、2項目とも平均より低かった。「授業内容は得るところがあったか」は平均よりそれほど、低くはなかった。しかし、満足度は低かった。これより、私なりに解釈すると、わずかでも得るところのある内容ではあったが、学生コメントの内容の通り、授業スピードが早くて、資料の量が多くて、今一つ満足できなかった、ということになるのかと、反省した。

授業改善の課題と方策

1年生の心理概論では、全体に平均以上の好評価を得た。しかし、専門の授業「障害児者心理学」では、平均より下の評価となった。2年3年生も、1年生と同じように、初めて聞く内容なので、基礎から教えるつもりでないといけない。また、授業の概要である「意見を交換する」授業内容がほとんどなかった。授業資料の量が多く、一方的に教師が話す授業になったことは、大きな問題点である。今後はActive Learningを取り入れる、授業の内容を欲張らず、学生に考えさせる、平易な言葉や内容に心掛ける、以上の点に気を付けて授業改善したい。

その他

2年・3年・4年生の選択授業だったが、学年が進むと知識は増えるが、本授業の内容については初めて知ることである、と反省している。わかったつもりで進めても何も得られないからである。また、臨床が好きな学生が多いので、障害児（者）に用いる検査や評価法を積極的に教え、実際に試してもらうことで、障害について理解が得られ、満足感が得られるのではないかと考えた。